

保育実践発表会 荒尾第一幼稚園

主題 「主体的・対話的で深い学び」を生み出すための環境構成、言葉かけ、配慮事項について

日時

2020年7月18日(土)午後14時～15時5分
オンライン形態による実践発表研修会

タイムスケジュール

- ・挨拶
- ・ビデオ1 (9分)雛人形協同製作概要
2016年ダイジェスト解説入り
- ・写真 (7分)2019年に起きたハプニング
- ・ビデオ2と解説 (14分)2020年2月の活動
- ・質疑応答(10分)
- ・外部講師による講評(予定)(15分)
- ・閉会

発表概要

2013年2月から本園が毎年行なってきた「年長組 雛人形協同製作」の中で「主体的・対話的で深い学び」を目指して改善してきたことを中心に発表する。

本園の近隣環境

本園は熊本県西北部の荒尾市に所在する。荒尾市は東に本市最高峰の小岱山があり、西に有明海がある。温暖で四季の変化に富んだ地域である。以前は三井三池炭鉱が産業の柱であったが、1997年に閉山。万田炭鉱は現在、観光資源として保存され、近年世界遺産として登録された。人口は約5万2千人。本園の近くには市営グラウンド、ショッピングモール、大きな遊園地があり、市内の中では比較的賑わっている地域である。本園は住宅地の中にある。

本園について

本園は、3歳児、4歳児、5歳児の各1クラスずつで、毎年園児数50名ほどの私立幼稚園である。近年、「環境を通した保育」を目指し、全職員で話し合いながら子どもたちにとって、より良い環境を日々模索している。午前にはクラスの活動やプロジェクト活動など行い、その後、外遊びが始まる。小さな園庭だが築山や小屋があり、年長組が行う缶蹴りやケイドロなどの隠れ場所になっている。泥や水を使っての遊びや廃材を使った製作も盛んに行われている。本園の特徴的な取り組みとして、表現活動やお話の世界で遊ぶごっこ遊びを中心とした発表会的な行事を実施している。

雛人形協同製作活動について

年長組3学期(2月から3月)、身近な廃材・素材を使って、実際の七段飾りの雛人形と同じ大きさの雛人形を作る2週間の継続した協同製作。この期間、朝の集まり、昼食、帰りの集まり以外、子どもたちの時間の使い方を自由にしている。園の行事、雛祭り集会までに雛人形完成させることを目標とした活動。

目指す子ども像を『共通の目的に向かって友達と一緒に取り組む』とし、協力すること、見通しを持って計画して生活すること、思いや考えを友達に伝えることをねらいとしている。

主体的・対話的で深い学びへの試行錯誤
～保育者の働きかけの変遷
(2013年～2015年までの取り組みから)

◎1. 具体的な目標を立てる機会を作る

製作の意欲につなげるために朝のお集まりで子ども一人一人に「頑張りたいこと」を考える時間を作る。

【反省】

「おひな様を作るのを頑張る」といった「抽

象的な目標」だとやる時に何を頑張ればいいのかわからなくなる。

【改善】

「何を頑張るのか」と問い掛け方を変えて、「三人官女の着物と髪の毛を作る」など、具体的な目標が思い浮かべられるようにした。

◎2. 完成した人形等を本物と交換してひな壇に飾る時間を変更

人形や道具が完成すると、1日を振り返りながらみんなの前で、本物と交換した。

【反省】

飾った後、意欲が高まるが、翌日になると意欲が薄くなってしまった。

【改善】

朝の会に変更。飾った後、意欲が高まる。そのまま製作に入る。

◎3. 保育者の子ども同士をつなげる関わり

課題にぶつかっている時、子どもと子どもを繋げることを意識した。「～で困ってるんだけど、一緒に考えてくれる?」「A君が得意だから聞いてみるといいかもね」

【反省】

保育者の「繋げようとする意識」が強くなってしまったため、子どもが必要としていない時に友達と繋げようと声をかけていると感じたことがあった。

【改善】

保育者の関わり方の意識を変える。

「何か困ってる?」等

子どもが自分で困っている事など言葉にする事で自分から聞こうとする気持ちを持って繋がられるようにする。

◎4. 見通しを持って計画的に生活することへの援助 (2016年2月 ●ビデオで発表)

「見通しを持って計画して生活すること」がねらいとして加わる。言葉で単に伝えるだけでは伝わらないと考える。

【時期を待つ】

・見通しを持って生活する大切さが伝わる時を捉える。

・製作に熱中して、遊ぶことも忘れて昼食を迎える姿が見られた。

【提案】

今ならば、「見通しを持った生活」の必要感を感じるかもしれないと思い、計画的に過ごす方法を提案。「作業で」「時間で」

◎5. 見通しへの援助・状況の見える化 2019年2月(写真で発表)

「自分たちが雛人形製作」をすることを楽しみにしている姿がある。2017年から雛人形をよりきれいに作るために「できたらセロハンテープを見えないようにする」という課題が加わる。

【新しい状況】

作る楽しさを感じ丁寧に細かいところまで作るので、時間がかかっている。製作のペースから雛祭り集会には間に合わないと保育者は感じた。

【保育者の困惑】

意欲的に活動している子どもたちに何を言えば良いのか?「間に合わなくてもよいのか?」保育者は子ども達の気持ちが分からなかった。

【子どもたちに聞く】

「みんなが作った人形で(雛祭り集会を)したほうがいいんじゃない」とある子が発言。間に合わせたい気持ちがあると感じた。

【進行状況が見える化・進め方の提案】

雛人形を全部下ろし、完成している雛人形数
がわかるようにした。製作できる日数を見え
るようにして、間に合うための進め方を提
案。計画的に過ぎし始める。友達と相談・協
力して製作する姿が多くなる。「雛祭り集
会」に間に合った。

【見直し】

「●2.」の完成した人形等を本物と交換して
いく環境構成は使われなくなった。

【考察「そのことを子どもたちは知っている のか。知らないのか」】

子どもがどう感じているのか。そこから保
育を考えることの大切さを改めて知った。子
どもがしていること、イコール主体的と盲目
的に考えると、見落とすことがある。子ども
たちの望む姿は何かと、考えて環境構成する
必要があると感じた。

●6. ドキュメンテーションを提示 2019年

2019年からドキュメンテーションを提示す
る。昨日の子どもの様子や工夫したこと、ア
イデアなど伝える。

【新しい状況】

子ども達はそれを見ることが多く、友達の作
り方を知る機会になっている。同じ作り方で
作ってみたり、分からない時はその友達に自
分から聞いたりする姿が増えてきた。

【見直し】

「●3.保育者の子ども同士をつなげる関わり」
をする機会が少なくなっている。

●7. 2020年2月の取り組み(ビデオで発表)

実践発表概要 年長組「雛人形協同製作」

【クラス】(2019年度)

実践者 さくら組(年長組)担任 増永

年長組 15名 男児9名 女児6名

【2019年度の年長組 子ども達の育ち】

年長組になった当初は年中組からの安心で
きる特定の友達と一緒に遊びが始まっていた
ように感じる。よってルールのある遊びをし
ていて、友達が「やめる」と言って違う遊び
に行ってしまうと一緒に遊びをやめてしま
うことがあった。そこで色々な友達と関わり、
友達の良さに気づき「いろいろな友達と一緒
に遊ぶことの楽しさ」を感じられるよう、活
動でルールのある遊びやふれあい遊びを取り
入れてきた。少しずつ、仲のいい友達だけ
ではなく色々な友達と、自分から関わる姿が
増えてきた。

また1学期ではルールのある遊びを始める
時、保育者に向かって「缶蹴りしよう」と
誘っていた。しかし行事などで友達と一緒に
協力することの楽しさや大変さを味わう体
験をしたことで仲間意識が深まってきてから
は友達同士で誘い合い、保育者がいなくても
自分たちで遊びを進める楽しさを感じるよ
うになっていった。

【活動内容】 様々な素材を使った雛人形七
段飾りの協同製作

【時期】 2020年2月18日～3月3日

【活動場所】 お遊戯室※この期間、他のク
ラスと調整して使用。

○ビデオ約12分 巻末テキストデータ参照

●8. 2020年の活動を振り返って

【保育者の聴く態度】

2020年の取り組みでは、保育者の子ども
たちの話を聴く態度が、例年と違う雰囲気
を感じた。「具体的な目標」を言う場面、今
までは子どもたちがどのような発言をする
のか保育者にとって、予想できる内容だ
った。2020年では、子どもたちが作業工
程を思い浮かべながら今日の予定を話す
姿が見られた。保育者は発言の機会を作
っているというより、

「子どもの今日の予定を質問して、話を聞いている」という様子になっていた。

保育者は、朝の会・帰りの会を行う時、時間をかけて丁寧におこなうことを意識した。後から振り返るとき、子どもも保育者も、何を言ったのか、わからなくなるのでメモを取り始めた。

子ども達が気づいたこと・分かったことなどを言葉で話すときに、保育者が「これは何を使っ作ったの？」と具体的な物の名前や場所を言葉で話せるよう声をかけた。以上の配慮事項が、発言時の豊かな主体的態度につながったのかもしれない。

【工夫・違うやり方】

同じものを作るのでも「今度はちょっと違う作り方にしてみた」や、ボンドでくっつけるときにもテープで固定したり工夫がされている。園生活で習得した知識や技能が生かされていた。

ドキュメンテーションの存在は友達の方法を知る機会となっていた。友達に聞いて新しい作り方を見つけたりすることが多くなり、作り方の選択肢が増え、より豊かな主体的態度を生み出したように思える。

【仲間を称賛】

仲間の頑張りを称賛する態度も多く見られた。どうしてこの態度が生まれたか職員間で話し合った。その結果、自分が一生懸命雛人形を作ることによって、友達の頑張りに気づいたりそれを素直に褒める姿に繋がっているのか、という意見が出た。

【協同製作の設定】

・1人の製作

例年のことだが、活動初日から前半は1人1つずつ製作にかかわることが多い。まれに数にではじめから作り始めることもあるが、多くは個人個人の制作から始まる。この時、何か困ったことがあると、ドキュメンテーションで知った友達に聞く姿見られた。

・仲間と協力して製作

日にちが経つにつれて残りの個数が少なくなり、1つの物を数人が作る形になってくる。数人が1つのものを作ると、自然と意見が出ていた。会話は、一方通行ではなく受け答え、共感の姿が見られる。

【保育の見直し】

保育の進め方の改善を重ね、最良の方法と想ったりしても、また新しい状況が生まれ、今までの環境構成が意味をなさなくなってくるのが常であり、保育を振り返り、見直し続けることが必要だと感じた。

【保育者の言葉掛け】

今回、あまり大きく取り上げていないが、保育者の言葉掛けの大切さは常に感じた。朝や帰りの会での保育者の言葉掛け。子どもたちの理解を深めるために、ある子どもが言ったことをわかりやすく復唱して伝えること。言い換えて伝えること。問題に気づかせるための焦点を絞った問いかけなど、保育者の言葉の選択には十分な検討が必要と感じた。

今後の課題

用意する素材、その提供の仕方。様々な素材を準備するが、子どもたちは日頃から親しんでいる色画用紙を使うことが多い。様々な素材で製作をするには、それまでの園生活を通して、様々な素材に親しむ体験が必要と感じている。

【ナラティブ・アプローチ?】

2019年2月(見出し●5)の出来事は今、冷静に振り返ることができるが、当時の私たちはどう考えていいのか、かなり困惑してしまった出来事だった。子どもが感じていることから保育を考える大切さを改めて感じた。「子どもたちが何を知っているのか、何を知らないのか」というところから考えることがナラティブ・アプローチにつながるのではないだろうか、と勝手に考えているのだが、どうだろうか。

雛人形協同製作2020年2月 ビデオ テキストデータ

	日時	人	言動	場面の概要	キーワード	考察・解説
1	2/19 (水)	Y	「剣に使いそうじゃない？」	素材との出会い		
2	2/19 (水) 10:56	保	「何で悩んでたの？」	テープが見えないようにする方法を友達と考えていたところ。	協力・課題解決	
3		I	「布」			
4		A	「布を、ここ何」			
5		I	「2枚被せるから」			
6		I	「こっちはテープを貼っていいけど」			
7		I	「こっちで、ここを見えなくするから」			
8		I	「こっちはどうしようって考えていた所」			
9	2/20 (木) 11:15	A	「9、10、11、12、13、14、15、16」	友達の数えた個数と合わない。友達と正しい個数を何度も数え直す。	対話・粘り強さ	
10		K	「え、違うよ。いくよ」			
11		K	「金の屏風が2つやる」			
12		A	「2つあるから」			
13		K	「うん」			
14		A	「1つ、2つが」			
15		保	「何個でした？」			
16		K	「え、17！」			
17	2/20 (木) 12:47	Y	「っ、ふぁー」	細かい作業	主体的 集中	
18		保	「どう？いい感じ？」			
19		Y	「うん」			
20	2/20 (木) 13:11	A	「3,4,5,6,7」	観察	主体的	観察できる物・触れる物
21		A	「でも、本当は一番下合わせたら8」			
22	2/20 (木) 13:49	Y	「この丸餅ね」	作り方の相談。丸い形状、つやつやした質感。	対話・課題解決	
23		Y	「あのね、形ね、餅ね」			
24		Y	「それどうやって作って」			
25		Y	「作ればいいのか、結構迷っとらすけど」			
26		A	「だけどビニールがないと出来ない」			
27		Y	「ビニール！？」			
28	2/21 (金) 10:42	Y	「あと、ここが斜めってんの」	友達へ製作物が立たない原因を助言	対話・課題解決	
29		H	「こうやって、こう」			
30	2/21 (金)	H	「お、グラグラしなくなった」			
31	2/21 (金) 11:22	K	「4本したら縦になれない」	友達と作り方の相談。提案した方法を試して二人で硬さを検証する。お互い別々の方法を提案するが、補強すべきとおもっている箇所は同じと気づく。	対話・見通し・課題解決	
32		K	「やってみよう、一回」			
33		Y	「一回合わせてどれくらい硬いか」			
34		Y	「まず、触ってみよう」			
35		K	「このくらいか、大丈夫かな？」			
36		Y	「あっ、でも結構硬いかも」			
37		Y	「あと、2本ぐらい」			
38		K	「や、違う。これさ」			
39		K	「Kは1本を、ね」			
40		K	「半分にして、ここ」			
41		Y	「支えがいるん」			

	日時	人	言動	場面の概要	キーワード	考察・解説
42		Y	「あのさ」			
43		Y	「これをさ」			
44		Y	「綿棒に変えるんじゃないでさ」			
45		Y	「なんかさ」			
46		Y	「ここら辺を後ろにさ」			
47		K	「そうそう、だから」			
48		Y	「なんか」			
49	2/26 (水) 10:35	Y	「Sくん、本物みたいだね」	友達の作品を称賛	認める	クラスの仲間の頑張りを知り、自分たちも主体的態度
50	2/27 (木) 10:09	S	「この中に、新聞ば入れるのが難しかった」	「頑張ったところ」の発表。友達の様子を知る機会。		
51		保	「あっ、そうなんだ。これに？」			
52		保	「へー、これに入れるのが難しかった」			
53		保	「でも、これみんなね」	友達の発言を紹介	保育者の言葉掛け	
54		保	「本物見たいって言ってたもんね」			
55		Y	「めっちゃ本物」	友達の作品・製作の姿を称賛	認める	クラスの仲間の頑張りを知り、自分たちも主体的態度
56		保	「本物そっくりってね」			
57		K	「Sちゃんね、あの、がん、それ、頑張ったと思うよ」			
58		保	「あ、頑張ってたよね」			
59		A	「頑張ってためっちゃ作ってたもん」			
60		保	「頑張ってたよね」			
61		K	「めちゃくちゃ頑張ってるように思う」			
62		I	「ねっ、Sくんって工作上手」			
63		保	「上手ね」			
64	2/27 (木) 10:14	保	「何をしたらおしまい？」	保育者が、今日の予定を聞く	主体的態度を引き出す保育者の関わり 見通しを話す・主体的態度	2020年に見られた新しい場面。子どもたちの製作への意欲を引き出すために「具体的な目標」を言う機会としていた(足場かけ)。今までは子どもたちが言うことをだいたい想像できたが、今年は、保育者が知らないことを質問するという形になった。保育者の聞こうとする態度と、ドキュメンテーションなどで子ども達が様々な技法を知ること、子どもたちのより主体的な製作態度が生まれたのかもしれない。
65		I	「あと、葉っぱと実を貼って」	これからする予定の作業を詳細に思い浮かべながら言葉にする。		
66		I	「えっと、刺せば、あー、刺すんじゃないで、くっつけば完成だから」			
67		保	「花と葉っぱは、どれくらいあとあるの？」			
68		I	「あと、えっと」			
69		I	「葉っぱは3個あってそれをくっつけて、棒に」			
70	I	「それで、貼るだけ」				

	日時	人	言動	場面の概要	キーワード	考察・解説
71	2/27 (木) 10:18	K	「あのね、ぼんぼりをね、立たせるね、だけで完成」	これからする課題を言葉にする。時間の経過に耐えられる建て方。	見通しを話す・主体的態度	
72		K	「重り下に入れたけどね、時間経ったら倒れてる」			
73		保	「あー」			
74	2/27 (木) 10:51	K	「茶色い何かで包むけん、ストローは見えんと思う」	きれいに作る方法	工夫	
75	2/27 (木) 11:37	保	「もしかして、髪の毛飾りですか？」	丁寧に工夫して作る	丁寧	
76	2/27 (木) 11:57	保	「テープの見えるところが一個もない」	丁寧に工夫して作る		クラスに伝えられた自分の役割?
77	2/27 (木) 11:59	保	「テープが見えないように頑張って作ってます」	丁寧に工夫して作る		クラスに伝えられた自分の役割?
78	2/27 (木)	A	「ここのはめるところが難しかった」	「頑張ったところ」の発表。友達の様子を知る機会。 丁寧に工夫して作る	対話的 自信	友達が行った方法を知る機会。課題解決。
79		保	「あ、そうなんだ」			
80		保	「どうやってはめたの」			
81		A	「両面ではめた」			
82		保	「へー」			
83	2/27 (木) 12:01	H	「着物を12枚つけるのが難しかった」	丁寧に粘り強く作る		
84	2/27 (木) 12:03	A	「矢が見たい。矢が」	「頑張ったところ」の発表。友達の様子を知る機会。		
85		B	「うわー、すごい」	友達の作品を称賛		
86	2/27 (木) 12:04	子	「髪の毛の一番下の結ぶところが難しかった」	「頑張ったところ」の発表。		
87		保	「あ、そうなんだ。下が難しかったの？」			
88		保	「Aちゃんのちょっと、飾り見てください」	友達の作品の紹介		
89		Y	「目が死ぬほどやばい」	友達の作品を称賛		
90		保	「凄いつてことよね」			
91		K	「ちゃんと立つように、下にあれがある」			
92	保	「そうなのよ」				
93		K	「三人官女って一人だけ正座してるんだよ」		見通しを持たせる環境	2013年～2018年まで、完成した雛人形と本物の雛人形を交換する場面を見て、意欲につながっていた。ここ数年丁寧に作るようになり、残
94	A	「うん、真ん中の人だけ」				
95	保	「真ん中だけね」				
96	2/27 (木) 12:07	K	「これだったら、できそうな気がしてきた」	見通しを持つ		

日時	人	言動	場面の概要	キーワード	考察・解説
97		保 「ね、なんかいい感じだよね」			り時間と作業量をわかりやすくする必要が出てきた。2019年の途中から、完成していない雛人形を段から下ろして、全体の作業状況をわかりやすくした
98	2/27 (木) 13:13	H 「これしても、立たんかった」	問題に気づかせる言葉掛け。子どもたちにの中に割り箸が丈夫という考えが入っている。取り付ける位置の問題に気づいていない。	問題を解決するための保育者の言葉掛け・環境構成	「提案はしない。現状の確認をする」「焦点を絞り、気づく援助をする」
99		保 「あら、立たんやった？」			
100		H 「では、どうすればいいだろうね」			
101		H 「じゃあ、中に、えっと」			
102		H 「割り箸入れる？」			
103		保 「どこに？」			
104		H 「割り箸」			
105		保 「どこに割り箸？」			
106		H 「足」			
107		保 「足に？」			
108		Y 「そうじゃなくて、もっと硬いものにすれば？」			
109		保 「本物はどこについてるんだろうね？」			
110		Y 「これは、あの、ここについてて、ちょっとここが曲がってる」			
111		保 「Hのはどこについてる？」			
112		Y 「あと、これは、見て。これは外についてるけどHのは中についてる」			
113		保 「あ、H。だって。Yもう一回教えてあげなよ」			
114		Y 「この本物のやつは、外に出てて、Hのは、えっと、中にいれてる」			
115		保 「外側につけるってこと？」			
116		Y 「うん。外側につける」			
117	保 「あ、Hそうだって。この本物はさ、外側についてるから、外につけてみたらだってYくんが」				
118	Y 「Yも今さっき気づいてなかった」				
119	保 「気づいてなかったけどね、よく見たらね」				
120	2/27 (木) 13:13	K 「Kもガタガタガタってしたいもん」	頭の中で描いた「こうしたい」に向かって製作。	主体的・見通し	
121	2/27 (木) 13:17	Y 「なんでグニャってこうやって倒れないかっていうと」	工夫を解説	工夫・主体的態度・深い学び	
122		保 「はい」			
123		Y 「中に割り箸を入れたの。」			
124		保 「おお、そしたら？」			
125		Y 「割り箸を入れないと、これこうすれば、硬くて、曲がらないでしょ」			
126		保 「へ〜」			

	日時	人	言動	場面の概要	キーワード	考察・解説
127	2/27 (木) 13:21	H	「ほら、こちら辺が。ほら。よし多分こちら辺だ」	大きさ・高さに注意を払う	よりよく・深い学びへ	
128		Y	「両面借りてもいい？」			
129		X	「いいよ」			
130	2/27 (木) 13:24	S	「階段はここ、こうやってやってから、また」	友達への助言	自信の現れ。対話的	
131		S	「これをきってから、またこれを切つてからなんかすると」			
132	2/27 (木) 13:52	A	「両面でね、一生懸命ね、切りながらね」	「頑張ったところ」の発表	自信、友達の様子	
133		A	「長さをね、測ってから貼ってね、できた」			
134	2/28 (金) 10:23	保	「やったーの顔です。これ、できたよーつてね。やっぱりできたら嬉しいよね」	ドキュメンテーションで、友達の姿を紹介	対話的へ	友達の様子・様々なやり方を知る場
135		I	「おら、めっちゃ嬉しかった」			
136	2/28 (金)	子	「おお」	知っている技法を利用	知識の再利用	
137		保	「いいんじゃない」			
138	2/28 (金) 10:54	A	「折る？」	友達に相談。技法を伝える。しかし、その技法をどうやって使うかわからないと伝える。友達のわからないことを理解し、説明する。	対話的 人間性	
139		I	「折ってさ、こうやってカーブして丸くしたら。きれいな丸になるよ」			
140		A	「こうやって？」			
141		I	「うん」			
142		A	「だってさー、印がわかんない」			
143		I	「こうやって、こうして」			
144		A	「ありがとう」			
145		保	「わかった？」			
146	A	「うん」				
147	2/28 (金) 12:04	保	「がんばったところ」	「頑張ったところ」の発表	自信・対話的	、友達の様子・様々なやり方を知る場
148		H	「たたせるところ」			
149		保	「たたせるところねえ」			
150	2/28 (金) 12:05	保	「あ、立った。立ってるね。おーやった」	友達の作品を称賛		
151	子ども達	(拍手)				
152	2/28 (金) 13:22	H	「この太鼓っぼいのこれでいいんじゃない？」	話し合い・提案	対話的	
153		Y	「なんかちょっと小さいよ。こっちは大きいじゃん。でも、こっちは小さいじゃん。だからこっちがちょうどいいんじゃないの？」	話し合い・作り方の方針	対話的	
154	2/28 (金) 14:15	保	「うーん、でもめっちゃそっくりにできてるやんね」	降園・預かり保育時間・主体的な態度	主体的	
155	3/2 (月) 9:56	保	「どこを頑張りましたか？」	「頑張ったところ」の発表	自信・対話的	友達の様子・様々なやり方を知る場
156		I	「裏のここの模様」			

	日時	人	言動	場面の概要	キーワード	考察・解説
157		保	「ね、すごいよね。あ、いいこと思いついたって言ったんだよね。前みんな舐揚げした時にさ、こうゆうの作って貼ったじゃない。それをいっちゃん思い出して、『あ、それで作ってみよう』って言ってこれ作ったんだよね」			
158	3/2 (月) 9:58	保	「綿棒のところをちゃんと5本作った」			
159		A	「ガムテープの芯がなかったけん、こうゆうお皿でやった」			
160	3/2 (月) 10:05	保	「菱餅、ストローで最初作って1回やったけど、うまく立たなかったの」	ドキュメンテーションで、友達の姿を紹介	対話的へ	様々なやり方を知る場
161		K	「なんか、下に割り箸でうまくできましたって書いてある」			
162		保	「割り箸でちゃんとうまくできました」			
163	3/2 (月) 10:10	K	「ストローでやってみたらどうだった？」	違う方法の結果を聞く	友達へり関心	
164			「割り箸じゃないとだめ？」			
165		A	「だってさ、硬いじゃん」			
166	3/2 (月) 10:14	Y	「見えないようにテープで貼って」	テープが見えないように丁寧に作る。友達の頑張りを認める		
167		I・保	「あ〜」			
168		Y	「ここらへん」			
169		I	「そこ」			
170		保	「あ〜」			
171	3/2 (月) 10:24	H	「お、すごーい」	友達を称賛		
172	3/2 (月) 10:25	保	「太鼓がいいね」	工夫を解説		
173		K	「これね、キャップをね白いやつで包んでね、ペンでここ描いたんだよ」			
174	3/2 (月) 10:29	保	「なるほど」	見つけたことを報告		
175		保	「お、ほんとやんナイスやん」			
176	3/2 (月) 10:32	T	「切れ目入れて、こうやって切ればいいじゃん」	やり方の提案。友達のやり方に関心する。	協力	
177		Y	「そうだね、全然思いつかない」			
178		T	「これさ、こうしてこれをこうすれば」			
179	3/2 (月) 10:39	Y	「できた」	完成		
180		保	「あ〜、できた」			
181	3/2 (月) 11:15		枠に合うように沿ってくる	工夫して製作		
182	3/2 (月) 11:58	Y	「あと模様だけよ。模様終わった？」	友達の進行具合を確認		
183		A	「模様だけ。まだ」			
184	3/2 (月) 12:01	K	「帽子ね、前も作ってたからね、作り方わかったけどね、なんか違う作り方にしてみた」	作り方の解説。技法の選択	違うやり方	
185		保	「そうなんだ」			
186	3/2 (月) 12:05	A	「こうゆうのつけたらね、斜めじゃなくなった」	工夫の解説		
187		保	「斜めじゃなくなったね」			
188		K	「その中って鏡になってるの？」			

	日時	人	言動	場面の概要	キーワード	考察・解説
189		A・数名	「なってるよ」			
190		K	「見せて」			
191		保	「鏡です」			
192		子	「うわっ」			
193	3/2 (月) 12:51	保	「Hちゃんの帽子それ、いい考えじゃない？」	子どもの工夫を認める言葉掛け		
194		保	「もしかしてあれでしょ？なんだっけ、紙コップでしょ？」			
195		H	「うん、紙コップ」			
196		保	「すごい。いい考えじゃん」			
197		H	「これをどうやってつけるか」	課題解決のため考える	深い学び	
198		保	「あ、これ？」			
199		H	「だってね、テープで貼ったらテープ見えちゃうから」			
200		保	「ああ、見えちゃうから」			
201		H	「ちょっとYちゃんに聞いてみよう。Yちゃん」	課題解決のため友達に助けを求める	協力	
202		Y	「なに？」			
203		H	「ちょっと来て」			
204		Y	「おっけい」			
205		Y	「なに？」			
206		H	「あのね、ここをどうして付けられいい？」			
207		Y	「なにを？」			
208		Y	「何か手伝うことないですか？」	協力の申し出		
209	3/2 (月) 12:53	I	「ちょっとこれ借りていい？」			
210		T	「いいよ」			
211	3/2 (月) 12:55	保	「後どこですか？」	接着の工夫	粘り強さ・深い学び	橘製作所に枝を接着剤を使ってつける時、持っていない経験をしていた。
212		I	「おらね、このね、」			
213		保	「アハハ、何これ」			
214		I	「ヤバい」			
215		保	「ちょっとよがんじゃった。あっ、つけてるんですね」			
216		I	「つけるためには、こうやって」			
217		保	「挟んでるんですね。すごい」			
218	3/2 (月) 12:54	T	「Yくんはそれば作って。Sくんはう〜ん」	友達の存在		
219		Y	「アイディアマン」			
220		T	「アイディア」			
221		保	「アイディア」			
222		T	「おらは、あのこれが落ちんごつ守る」			
223		保	「どう？」	友達の進行具合を確認。友達を称賛	対話的	
224	3/2 (月) 13:08	I	「見して、ちょっと。おーいいじゃん!!いいじゃんいいじゃん」			
225		T	「これで完成かな」			

	日時	人	言動	場面の概要	キーワード	考察・解説
226	3/3 (火) 8:49	S	「できた」	作品を見直す。確認して「できた」。丁寧な製作態度。	主体的	
227	3/3 (火) 9:04	S	「もう僕できたからね、Yちゃん手伝ってる」	自分の役割を終えたことを告げて、協力していることを報告。	対話的・友達 関心	ずっと、気にしていた友達の頑張りを喜ぶ。
228		A	「おっ(拍手)」	友達の完成した作品を見に行く。称賛している態度		
229	3/3 (火) 9:12	K	「こっち持っていくね」	友達の援助。片付けるものを手伝う	協力	
230		H	「うん」			
231		K	「Hちゃん、行こう」			
232	3/3 (火) 9:21		挟んで接着した「太鼓」に紐を取り付ける	工夫・粘り強さ		
233	3/3 (火) 9:21		友達が製作していた「お茶道具」手伝う	協力		
234	3/3 (火) 9:25	H	「ね、ちょっとこれ」	協力		
235		Y	「ん？これはここ」			
236	3/3 (火) 9:37	I	「やっとできた」	製作物完成。担任とハイタッチ		
237		保	「イエーイ」			
238	3/3 (火)	A	「完成？」	完成 友達の片付けるもの手伝う		
239		保	「どうですか？」			
240		Y	「完成」			
241		保	「やったー」「やったー」			
242		A	「置いてくるよ」			
243	3/3 (火) 10:09	I	「できた」	完成		
244		保	「さくら組のひな人形完成です」			
245		子ども	「イエーイ」(子どもたち)			
246	3/3 (火) 10:36	A	「乾杯できないよー」	雑祭り集会が終わって、カルピスで乾杯		
247	3/3 (火) 13:33	K	「すざいって言ってくれるかなって思ったけど、言ってくれて嬉しかった」	年中組・年少組が真剣に静かに見ている態度が嬉しかった様子		
248		保	「あー、よかったね」			